

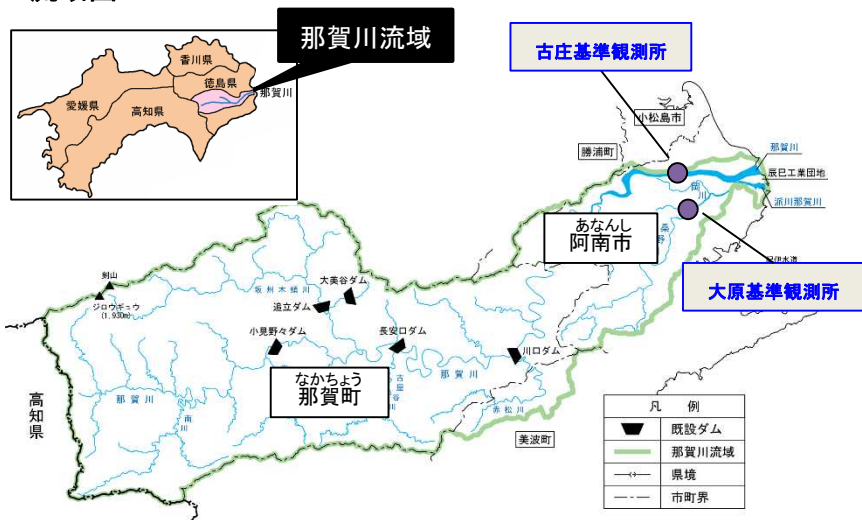
# 令和8年台風第6号の概要 【那賀川・桑野川】

令和8年6月  
那賀川河川事務所

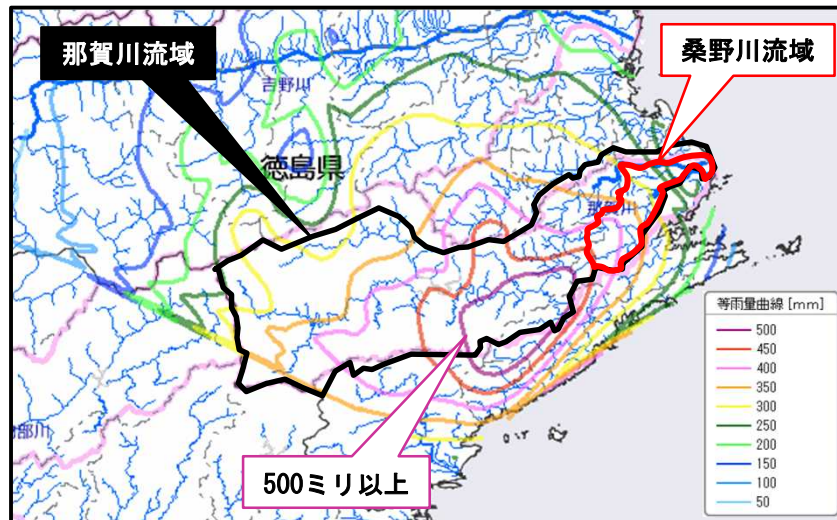
# (1) 気象の概要について

● 令和8年台風第6号が6月2日から3日にかけて四国沖を通過し、その本体や周辺の発達した雨雲、さらに活発となった前線の影響により、徳島県内では大雨となった。6月1日13時から3日12時までの降水量は、那賀川流域で500mm以上の降雨を観測した。

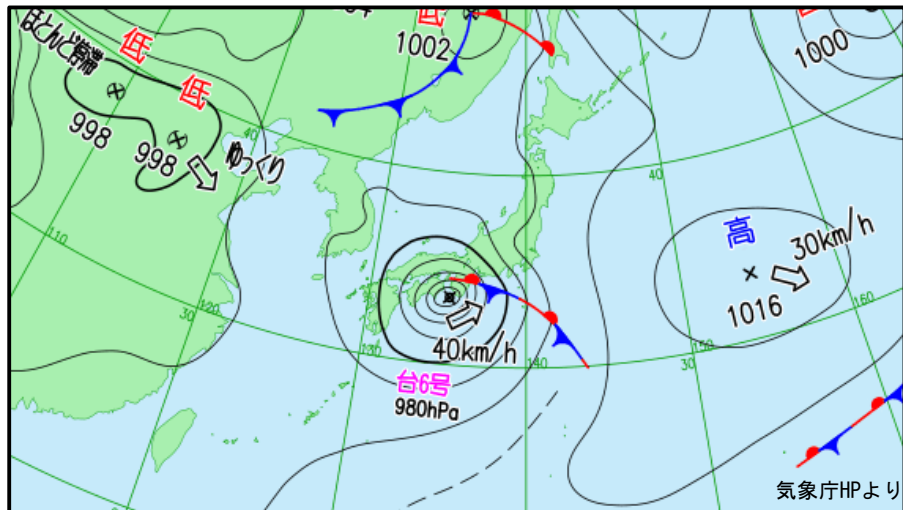
## ■ 流域図



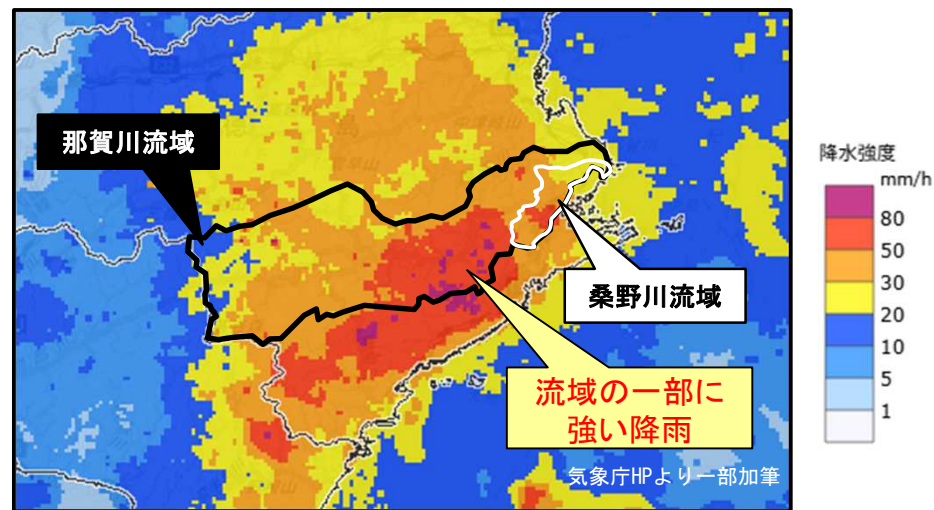
## ■ 期間降水量(6月1日13時～6月3日12時)



## ■ 天気図(6月3日3:00時点)



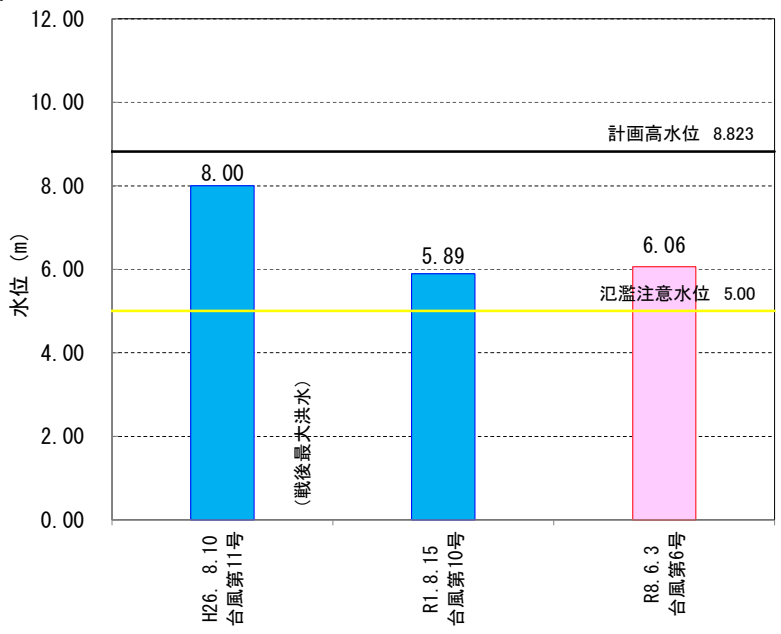
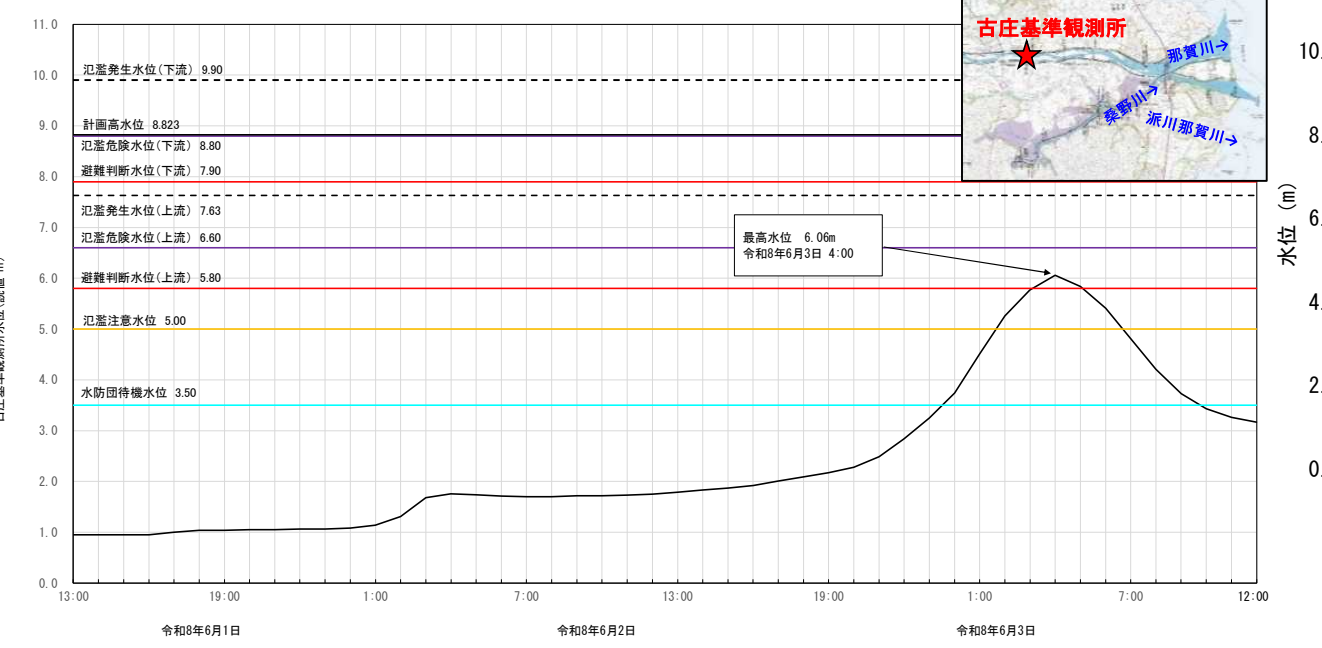
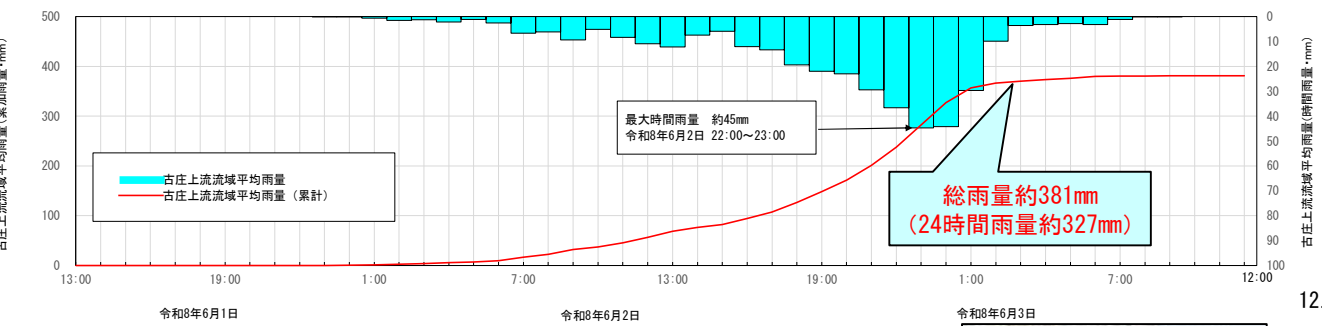
## ■ 雨量レーダ画像(6月3日0:05時点)



# (1) 気象の概要について(那賀川)

- 那賀川の基準地点である古庄基準観測所の上流域において、6月1日13時から3日12時までの期間で流域平均総雨量約381mm、最大時間雨量は約45mmを記録。
- 6月3日3時10分に避難判断水位(上流)の5.80mを超過し、6月3日4時00分に6.06mの最高水位を観測した。
- **那賀川において、令和元年8月台風第10号以来、約7年ぶりに氾濫注意水位(5.00m)を超過する洪水を記録した。**

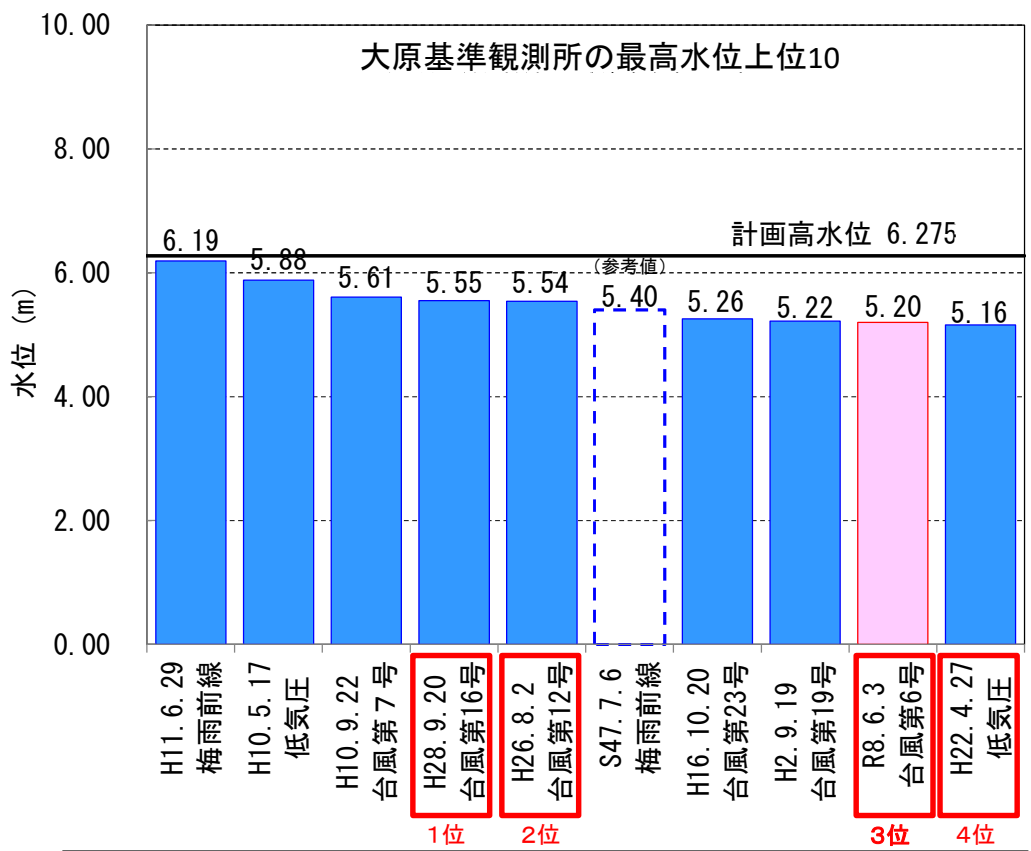
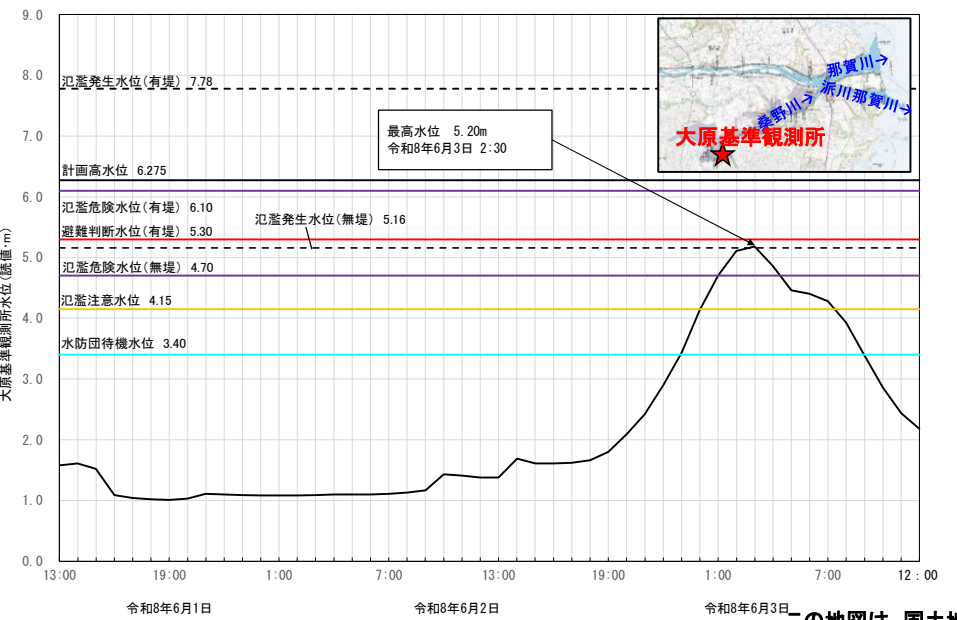
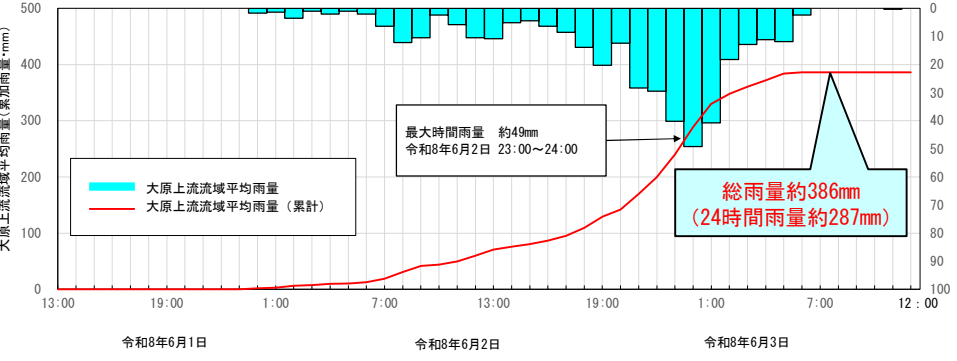
## 那賀川:古庄基準観測所



# (1) 気象の概要について(桑野川)

- 桑野川上流域の基準地点である大原基準観測所の上流域において、6月1日13時から3日12時までの期間で平均総雨量約386mmを観測。
- 6月3日2時20分に氾濫発生水位(無堤)の5.16mを超過、6月3日2時30分に最高水位5.20mを観測し、最高水位第9位を記録。
- 桑野川床上浸水対策特別緊急事業等が完了した平成20年度以降の洪水としては、過去3位の最高水位を記録した。
- 令和8年5月29日より運用開始した新たな防災気象情報のレベル5に相当する「レベル5氾濫発生情報」を四国管内で初めて発信。

## 桑野川:大原基準観測所



□ : 桑野川床上浸水対策特別緊急事業が完了した平成20年度以降の洪水

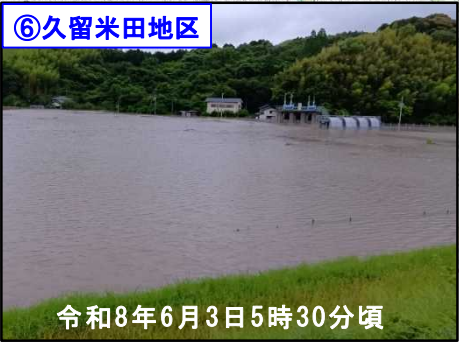
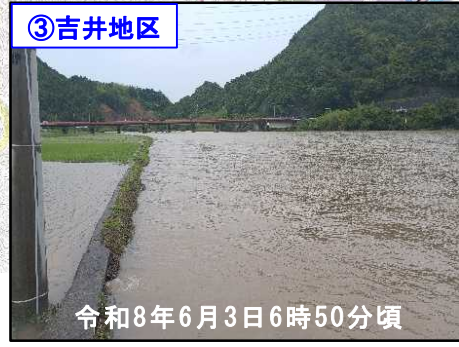
# (2) 那賀川浸水被害状況図(令和8年台風第6号)

● 那賀川の国管理区間では加茂地区、深瀬地区、吉井地区等で、合計約85haの浸水が発生した。



凡例  

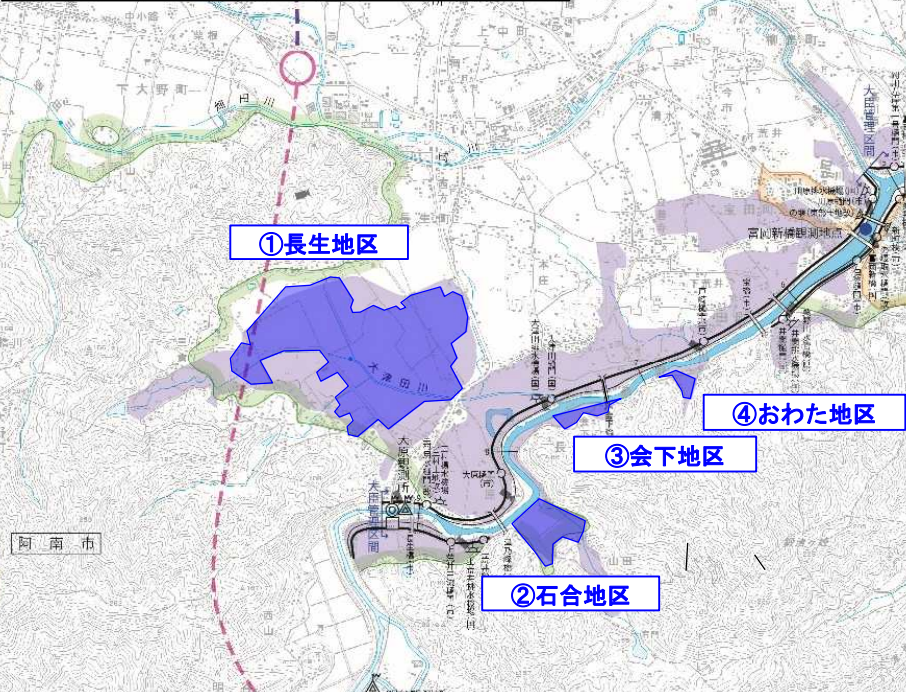
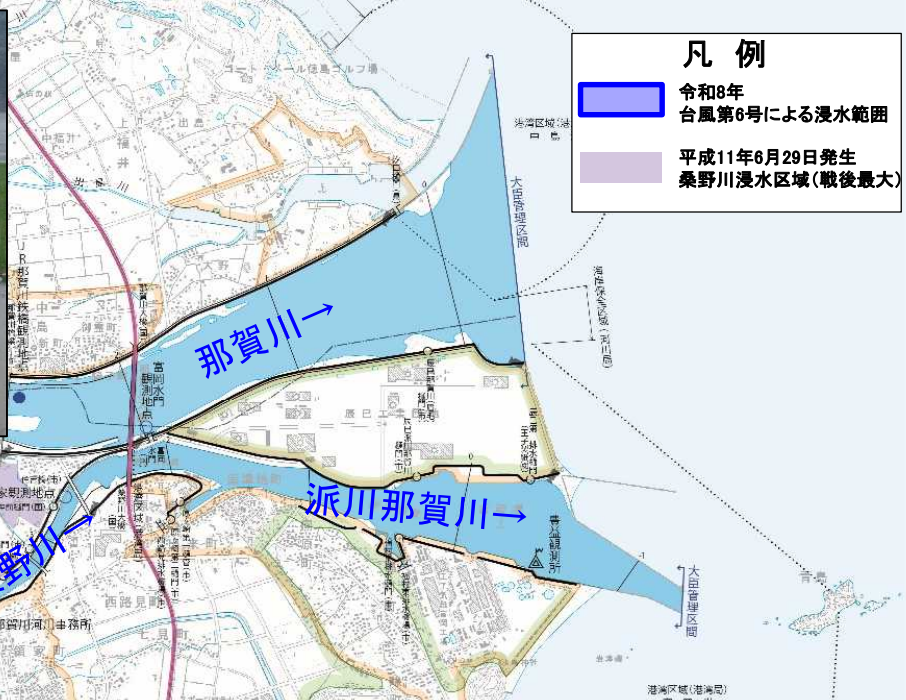
 令和8年  
台風第6号による浸水範囲  
 平成26年8月10日発生  
那賀川浸水区域(戦後最大)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1、5万分1地形図を複製したものである(承認番号 平29情複、第1548号) ※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査により変わる可能性がある。

# (2) 桑野川浸水被害状況図(令和8年台風第6号)

● 桑野川の国管理区間では長生地区等4地区で、合計約82haの浸水が発生した。



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査により変わる可能性がある。  
 この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1、5万分1地形図を複製したものである(承認番号 平29情複、第1548号)

# (3) 令和8年台風第6号への対応(排水機場稼働状況)

● 那賀川・桑野川での内水氾濫による浸水被害を防ぐため、排水機場の稼働により、約596千 $m^3$ (25mプール約1,490杯分注<sup>1)</sup>の排水作業を行い、浸水被害の軽減を図った。

注1) 25mプールは「長さ25m、幅16m、深さ1m」として換算

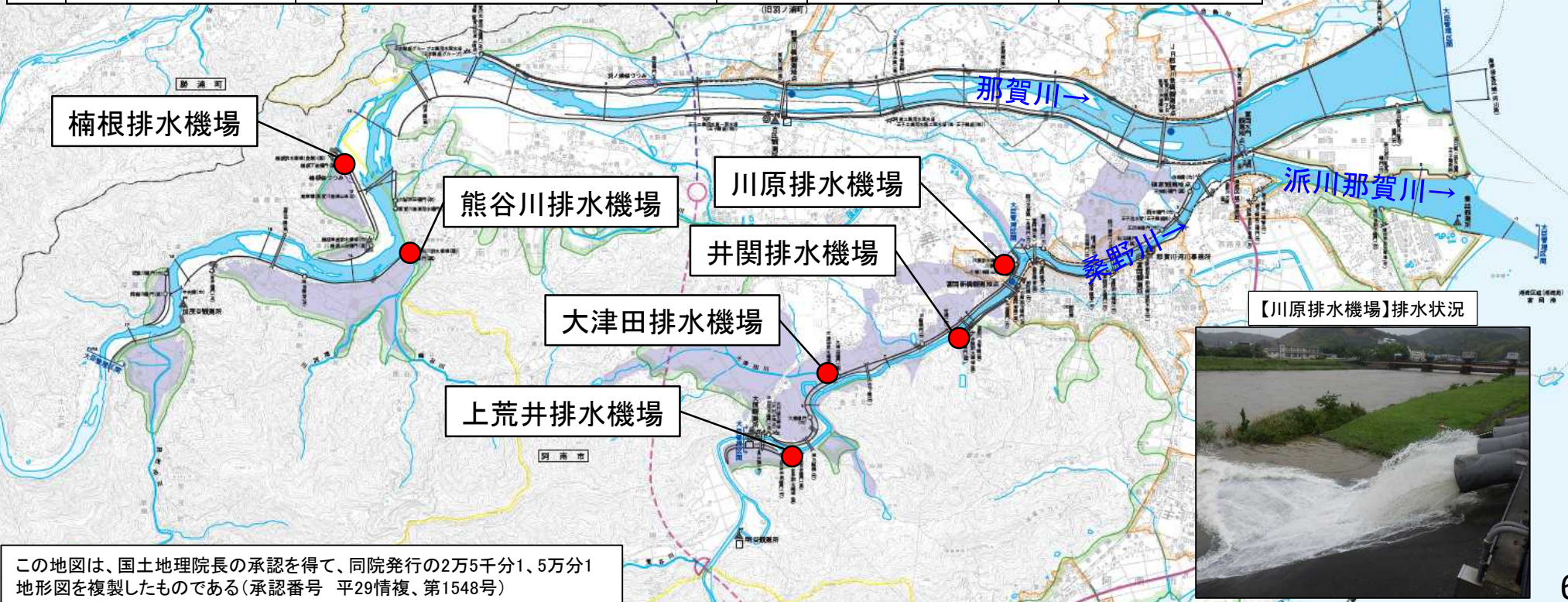
## 排水機場の稼働状況

※本資料における数値は現時点での速報値であり、今後修正される可能性があります。

凡例

● : 排水機場

排水機場名		位置	ポンプ規模	稼働時間	備考
那賀川	クスネ楠根排水機場	那賀川左岸(楠根下流地区) 河口より12.5km付近	2.0 $m^3/s$	6月2日 22:51 ~ 6月3日 9:59	約49,000 $m^3$ を排水
	クマタニガワ熊谷川排水機場	那賀川右岸(吉井地区) 河口より13.6km付近	5.0 $m^3/s$	6月2日 22:20 ~ 6月3日 13:48	約60,000 $m^3$ を排水
桑野川	カワハラ川原排水機場	桑野川左岸(川原地区) 河口より5.2km付近	5.0 $m^3/s$	6月3日 0:26 ~ 6月3日 7:17	約86,000 $m^3$ を排水
	イセキ井関排水機場	桑野川右岸(井関地区) 河口より6.2km付近	0.3 $m^3/s$	6月2日 23:57 ~ 6月3日 8:48	約8,000 $m^3$ を排水
	オオツダ大津田排水機場	桑野川左岸(大津田地区) 河口より7.6km付近	10.0 $m^3/s$	6月2日 21:56 ~ 6月3日 7:58	約364,000 $m^3$ を排水
	カミアライ上荒井排水機場	桑野川右岸(上荒井地区) 河口より8.6km付近	0.6 $m^3/s$	6月2日 21:31 ~ 6月3日 10:54	約29,000 $m^3$ を排水



# (3) 令和8年台風第6号への対応(排水ポンプ車稼働状況)

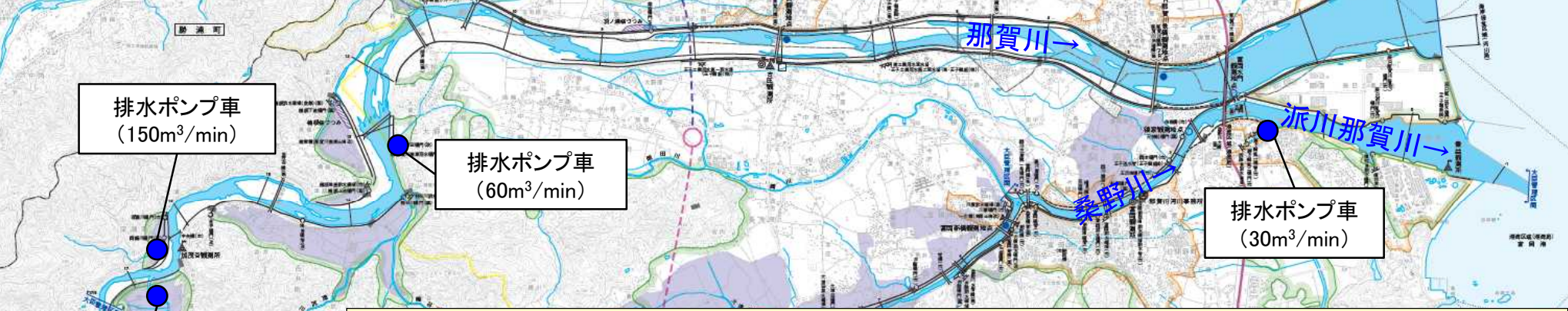
● 那賀川・派川那賀川での内水氾濫による浸水被害を防ぐため、自治体の要請により、排水ポンプ車による排水作業を行い、浸水被害の軽減を図った。

## 排水ポンプ車の配備・稼働状況

※本資料における数値は現時点での速報値であり、今後修正される可能性があります。

排水ポンプ車(装置)	位置	ポンプ規模	稼働時間
排水ポンプ車 (30m <sup>3</sup> /min)	派川那賀川右岸(原ヶ崎地区) 河口より1.7km付近	30m <sup>3</sup> /min	6月2日 21:05 ~ 6月2日 21:50 6月2日 22:20 ~ 6月3日 0:58 6月3日 1:25 ~ 6月3日 3:45
排水ポンプ車 (150m <sup>3</sup> /min)	那賀川左岸(深瀬地区岡崎川樋門) 河口より16.3km付近	150m <sup>3</sup> /min	6月3日 1:30 ~ 6月3日 3:50 6月3日 4:38 ~ 6月3日 5:25
排水ポンプ車 (60m <sup>3</sup> /min)	那賀川右岸(久留米田地区) 河口より13.2km付近	60m <sup>3</sup> /min	6月3日 7:30 ~ 6月3日 7:55 6月3日 8:15 ~ 6月3日 10:03
排水ポンプ装置	加茂谷川右岸(加茂地区)	30m <sup>3</sup> /min	6月2日 23:50 ~ 6月3日 4:00

凡例  
● : 排水ポンプ車(装置)



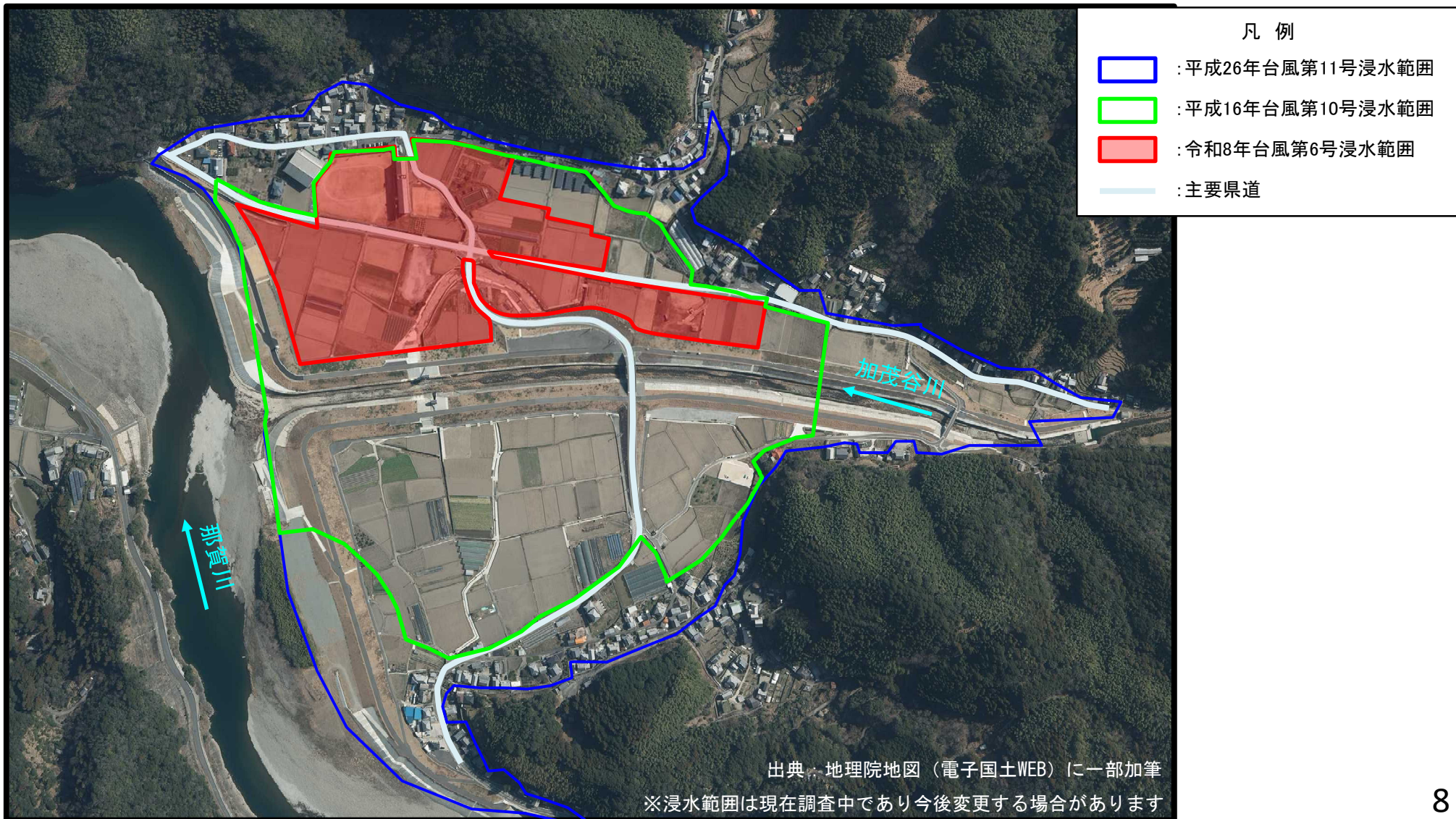
## 排水ポンプ車の稼働状況



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1、5万分1地形図を複製したものである(承認番号 平29情複、第1548号)

# (4) 那賀川床上浸水対策特別緊急事業の効果

- 今回洪水では一部浸水が発生したが、**那賀川床上浸水対策特別緊急事業の堤防整備の効果により、那賀川本川からの氾濫はなかった。**
- 令和8年台風第6号と同規模の平成16年台風第10号洪水と比べて、加茂地区では浸水範囲が縮小した。

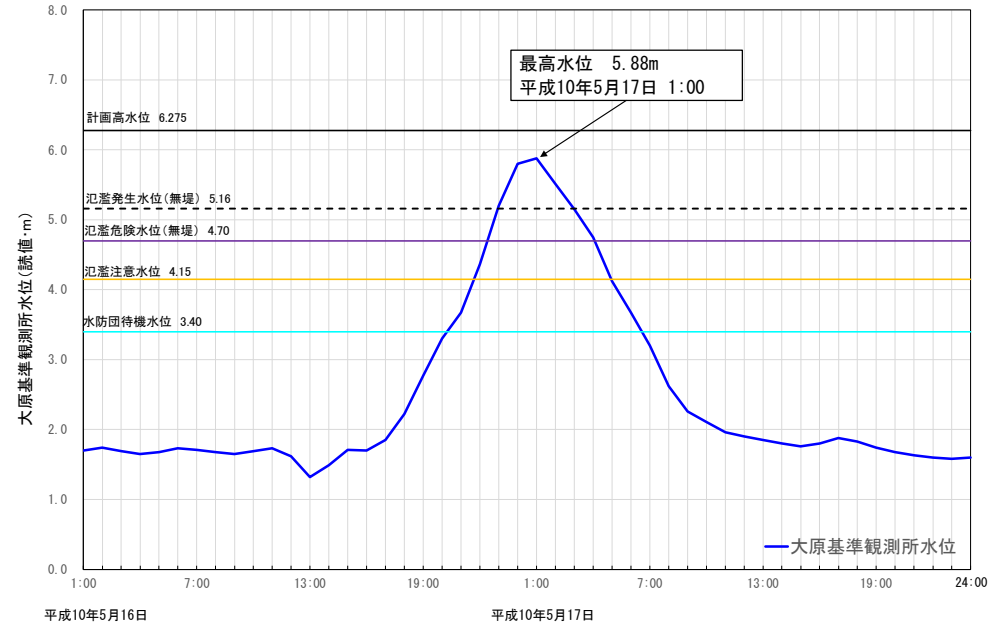
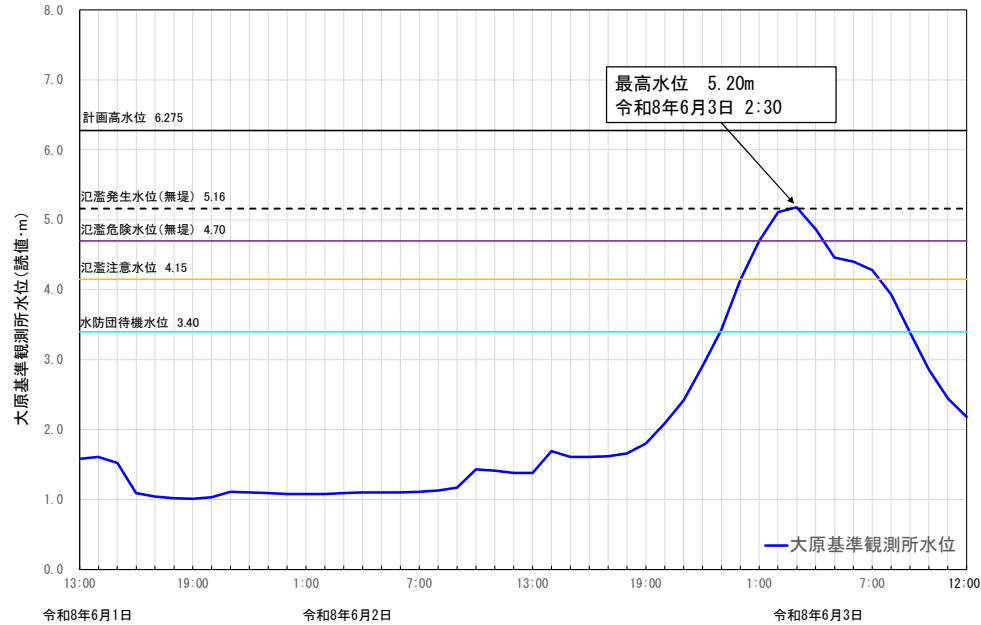
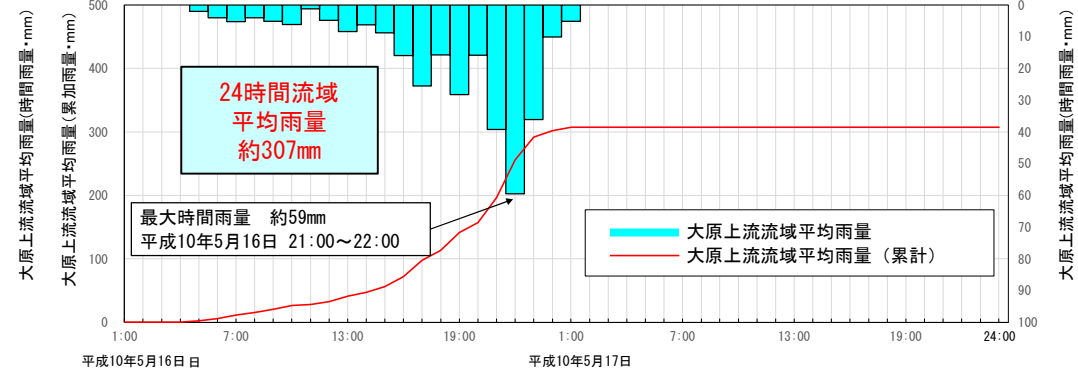
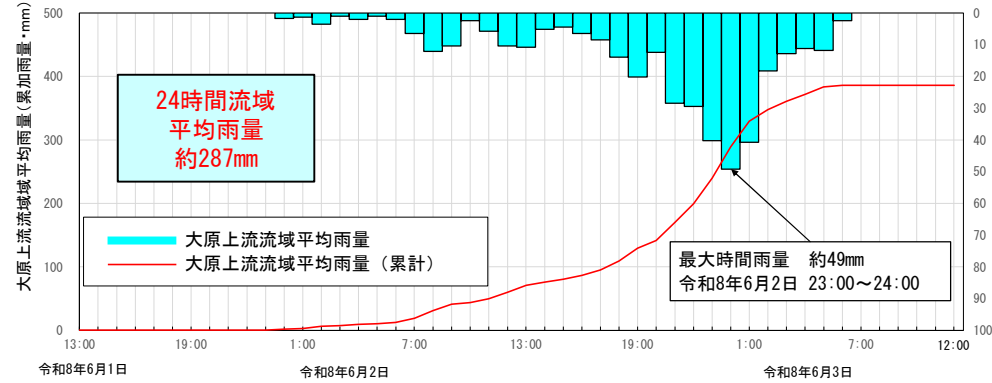


# (4) 桑野川床上浸水対策特別緊急事業等の効果

- 令和8年台風第6号の24時間の大原上流流域平均雨量約287mmは平成10年5月前線による洪水(約307mm)と同規模だった。
- 桑野川において最高水位5.20mを記録し、大原基準観測所(無堤)の氾濫発生水位5.16mを上回ったが、**桑野川床上浸水対策特別緊急事業等の引堤により河川水位の上昇を抑制し、さらに排水機場整備により、内水を排除したことによって家屋浸水が発生しなかった。**

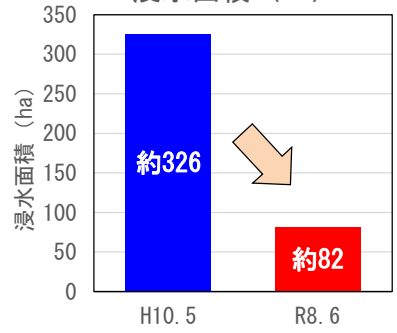
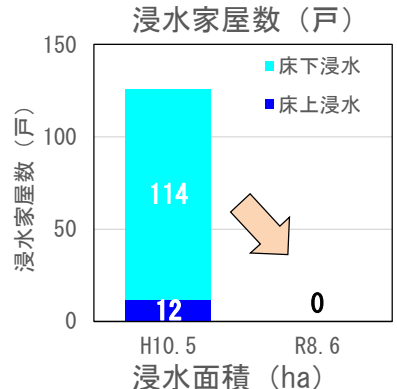
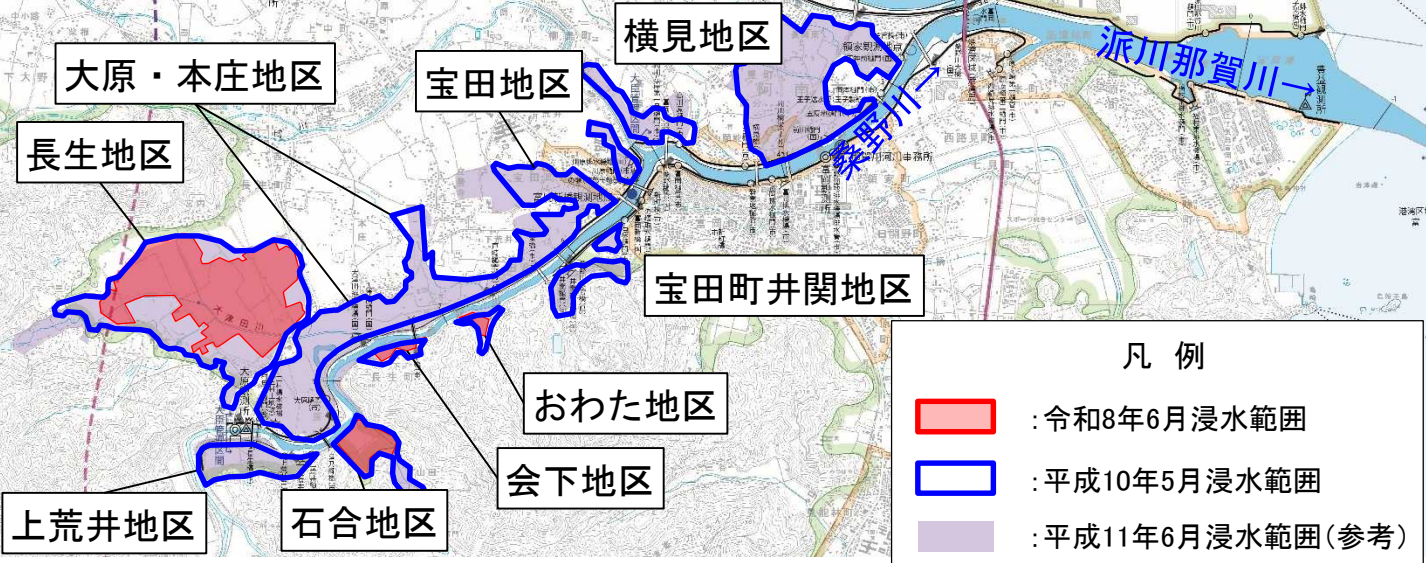
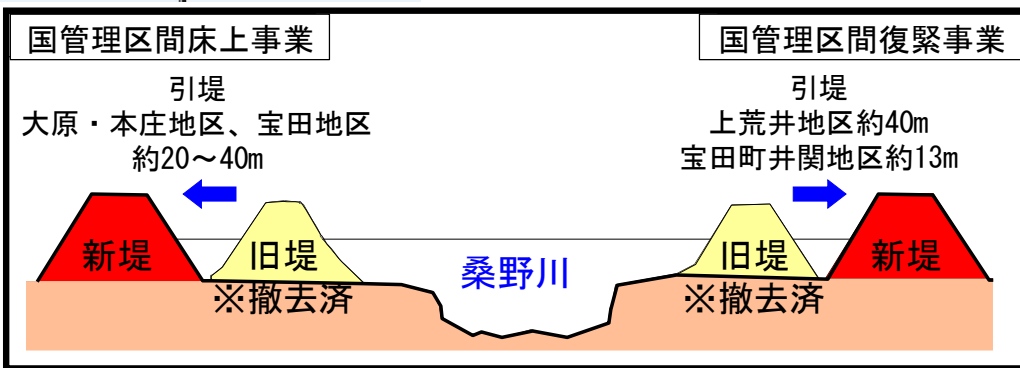
令和8年台風第6号

平成10年5月前線による洪水



# (4) 桑野川床上浸水対策特別緊急事業等の効果

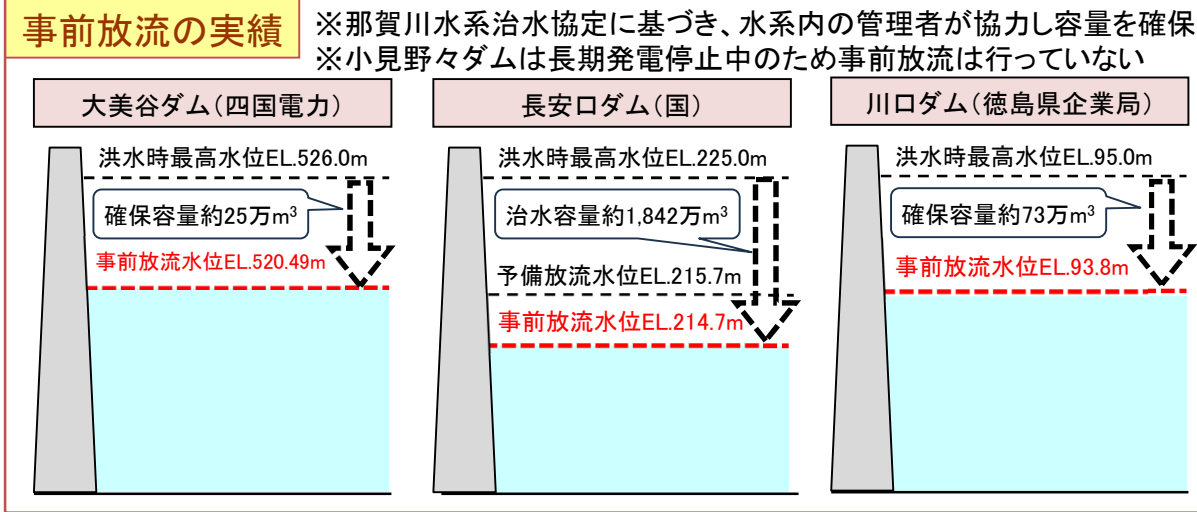
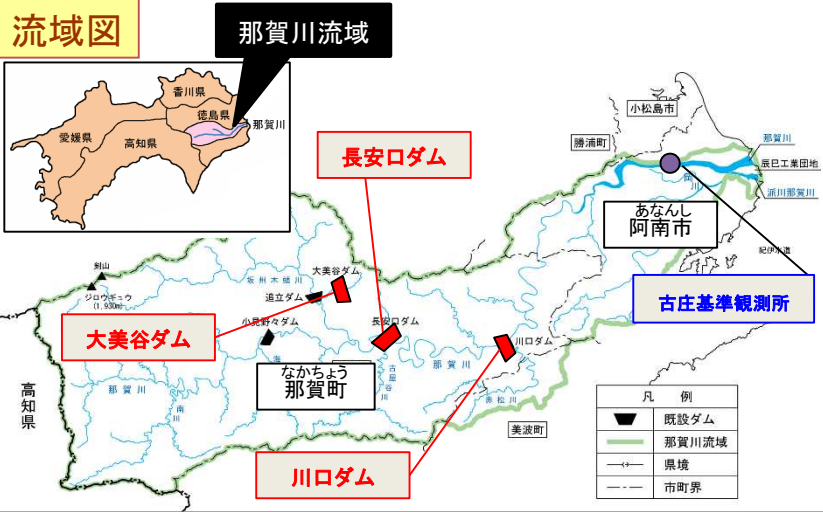
- 令和8年台風第6号と同程度の24時間雨量を観測した平成10年5月洪水を比較すると、浸水面積(約326ha→約82ha)、浸水戸数(126戸→0戸)が大幅に軽減。
- 桑野川床上浸水対策特別緊急事業等(引堤+排水機場整備)の効果により河川水位の上昇を抑え、浸水範囲が大幅に縮小した。



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査により変わる可能性がある。  
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1、5万分1地形図を複製したものである(承認番号 平29情複、第1548号)

# (4) 長安ロダム改造事業等の効果

- 令和8年台風第6号に伴う大雨により、長安ロダム上流域では約355mm(6月1日22時～6月3日8時)の累計降雨を観測。
- 令和2年に完成した長安ロダム本体改造(新設洪水吐ゲート2門設置)により、洪水調節容量を1,096万 $m^3$ から1,680万 $m^3$ に増大。加えて、事前放流を実施することで約162万 $m^3$ (合計1,842万 $m^3$ )を確保。
- 利水ダムにおいても、事前放流により、約98万 $m^3$ (川口ダム約73万 $m^3$ 、大美谷ダム約25万 $m^3$ )を確保。
- 長安ロダムでは洪水調節には至らなかったものの、流入量のピーク到達後にダムへの貯留する操作を行ったことから、古庄基準観測所の水位において、氾濫注意水位を上回る時間を約30分短縮することができ、漏水による堤防決壊のリスクを軽減できたと推測。



## 長安ロダムによる下流河川への効果

※本資料における数値は現時点での速報値であり、今後修正される可能性があります。

